

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|-------|--------------|
| 施設名 | このえ南千束保育園 |
| 施設所在地 | 大田区南千束1-12-2 |
| 法人名 | 株式会社なないろ |

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「声・音・動きの表現遊び」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日頃から子どもたちは、音楽に自然にリズムを刻み、全身を使った即興的な表現を楽しんでいる姿から、都会型保育園には珍しい広いホールという恵まれた環境を活かし、今年度はリズム保育「リトミック」を中心とした保育計画を立てた。これまでの「声・音・動き」の三感覚（聴覚・触覚・身体感覚）を統合する「このえ保育」をさらに発展させ、独自のプログラムを深め、視覚的な教具や遊具を新たに取り入れ、感受性、表現力、自己発信力を多面的に引き出し、遊びを通じて想像力や計画性の育成を図る。視覚教具を取り入れたリトミックの実践は、子どもたちの表現意欲をさらに引き出す効果的な方法だと考える。環境と実践的なカリキュラムの融合により、子ども一人ひとりの健やかな成長を支援することを目指す。

2. 活動スケジュール

- 1.すくわくプログラムへ参加するために視聴勉強会を実施(5月~)
- 2.本部保育責任者と共に活動内容とねらいについて視点合わせ
園内各担当者の設定と計画の立案。(7月~)
- 3.拍子リズム遊びを実施(拍子を知る・動く・表現する)(9月~)
- 4.視覚的な用具、教具を随時提供
- 5.聴覚的リズム・発声を組み合わせた、身体感覚の獲得を促進する専門的な実践映像の動画教材を提供(3月~)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○環境（場所・空間）

都会型保育園では珍しい広いホールをリトミック活動の中心として活用

○活動の素材・道具（教具・遊具）

自分の体の動きを正確に感じ取る力や考えながら体を動かす計画性や、表現力・想像力の育ちを目的とした視覚教具・

遊具：マーカーコーン、カラーリングなど

○リトミック動画（視聴覚教材）

【声・音・動き】の三感覚統合を促進するため、動作の視覚的モデリングと連動する聴覚的リズム・発声を組み合わせた専門的な実践映像として作成・準備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

| |
|---|
| <p>【拍子リズム遊びを実施(拍子を知る・動く・表現する)】</p> <ul style="list-style-type: none">・拍子について子どもと話し合い、子どもの声を聞き取り「やってみよう」という意欲を引き出し、2拍子、3拍子、4拍子のそれぞれを実践。・拍子リズム遊びを展開し、子どもたちが拍子に合わせてイメージを広げながら自由に動けるようにする。保育者は「雨が降ってきたよ」「水たまりができたね」「鳥になるよ」「楽しくなってきた」「怒って」など多様な情景を声掛けし、子どもが自ら情景をイメージし、動きを取り入れられるように進める。・毎日の挨拶で様々な感情表現を表し、社会的な生活における望ましい習慣の態度を身に付けていく。 <p>【視覚的な用具、教具を随時提供】</p> <p>道具を使って拍子を取る活動、数・数量・速度・記号を音楽的身体表現を取り入れ、全身を使って拍子を取りながら感情を表現する。太鼓、リング等の教具を活動に取り入れることで、子どもは自分の体の動きを正確に知覚し、考えながら体を動かすプロセスの促進を目指す。</p> <p>【聴覚的リズム・発声を組み合わせ、身体感覚の獲得を促進する専門的な実践映像の動画教材を提供】</p> <ul style="list-style-type: none">・動画教材を通じて子どもたちのワクワクする気持ちと、一緒に活動しようとする意欲を引き出します。また、子どもが自分なりに表現する姿を認め、自由な表現を促す。・映像から感じ取ったことなどを話し合ったり、実際に体を動かして表現したりする活動を通して探求を深めます。さらに、活動を通じて学んだ内容を子どもたちが自ら発表する場を設ける。 <p>【⑤振り返り・共有する】</p> <p>活動終了後に保育実践者と指導者で振り返り、評価を行う。このプロジェクトは園全体の取り組みとし、活動内容は園内掲示やホームページでの公開する。</p> |
|---|

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

| |
|--|
| <p>(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)</p> <ul style="list-style-type: none">●「強・弱」のリズムを知る<ul style="list-style-type: none">・初回では「何をするの?」と興味を示し、保育者を真似て「強・弱」と声を出す姿が見られた。・月の後半には動きだけではなく、強・弱の違いを声の大きさや抑揚で表現できるようになった。●リトミックドーナツやパチなど道具を用いたリズム遊び<ul style="list-style-type: none">・リズムや拍子を体を使って表現することに対し、「面白いね」などと楽しさを共有する姿があった。・指で叩いていた時とは長さが異なるため、マーカーコーンとの距離感を掴むことに戸惑う子もいたが、「どこに置くと叩きやすいかな?」と子どもが自分で考える時間を設けることで、自分なりに試しながら取り組む姿が見られた。●友だちと一緒に拍子を表現する(けんばリングを用いて拍子を並べてみる)<ul style="list-style-type: none">・3連符を「ミッキーみたい」4連符を「いもむしみたい」とイメージに結び付けながら並べようとする姿があった。・「もっとこうしてみようかな」「昨日やったやつと一緒にだ」など、これまでの活動を思い出しながら自分たちで試そうとする姿が見られるようになった。●リトミックの映像を見ながらパチで拍子を叩いてみる<ul style="list-style-type: none">・やってみてどうだったか、なぜそう思うのかなど子ども自身が考えられるよう問いかけることで「早いと難しい」「ゆっくりならできるかも」「沢山練習する」など、自分の考えを伝える姿があった。・前回の子どもたちの声を活かし映像の速度を変えて実施すると「前は早くできなかったけど、ゆっくりにしたらできるようになって嬉しかった」という声も上がり、達成感や満足感にもつながった。 |
|--|



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「強・弱」のリズムに触れる段階的な活動により、子どもたちは音やリズムへより興味を持ち、理解を深めていった。

けんばリングを用いた活動や2人組での活動を通じて、友だちと相談し、配置や動きを工夫する姿が見られた。これは、試行錯誤しながら活動を進める経験に繋がった。

すくわくでの取り組みを通して、以下の力が育っていると感じている。

- ・音やリズムにより興味を持つ力
- ・自分なりに工夫したり試したりしながら表現する力
- ・友だちと関わりながら活動に取り組む力